

## 第1回職業奉仕研修会が開催された!!

職業奉仕部門委員長 橋本正彦

去る7月12日(土)朝霞市民会館において、出席者104名で開催されました。

出席者は大きな感動をお持ち帰り頂いたと思いますが、参加されなかった方のために“紙上ミニ研修会”を開催しますので、ぜひお読み下さい。

挨拶：第2グループガバナー補佐 浅田 光二

職業奉仕の真髄は、1989年に規定審議会が採択したロータリアンの職業宣言に凝縮されていると言ってよいでしょう。『手続要覧』を常に身近において「活字離れ」を防ぐ努力が、あなたに職業の品位を保ち最高度の倫理的基準を推進する活力を与えてくれるはずです。

講演：経済アナリスト 竹井 巖(上福岡RC)

今年度は職業奉仕、橋本正彦部門委員長の肝いりで「職業奉仕はロータリーの原点である」との強い信念のもとに、例年とは事を異にした方針を打ち出しました。平成不況の真っ只中「何とかロータリアン企業に元気になってもらいたい」との一念で「竹井君一つ力を貸してくれ!!」そんな強い熱意が私に向けられ、私も同じ問題意識を持っていたので協力を約束しました。

現在の不況は、70年前1930年代全米で経験した状況と同じ性質で、そのときロータリアン企業がどう乗り切ったのかを検証することは、今日の我々に大きなヒントになるであろうと考えました。そして、アメリカ経済復興の大きな起爆剤になったのが「企業倫理」と「顧客への貢献」を主眼に置いて、本物の経営をしたロータリアン企業たちであったのです。

一例を挙げると、世界的にも有名なジョンソン&ジョンソンという企業があります。この大企業にとって大きな試練となったのが、1982年タイレノールという鎮痛剤のカプセルに、何者かが小売店の店頭で毒を入れ、5人が亡くなった事件です。これに対し同社は、即座に全米に新聞広告で謝罪し、商品の回収と被害者に対する補償を決めました。同社に過失が無いことが明らかになったにもかかわらず、テレビを通じての商品回収の告知や補償に300億円近い費用がかかり、会社は厳しい局面を迎えましたが、従業員が「俺たちは会社の行動を支持する」として進んで献金に応じたのです。

企業の正しい行動によって、全米の消費者から「信頼」という評価を得たのです。21世紀は「日本の時代」と私は信じています。企業倫理を踏まえ「本物の経営」をして頂きたいと考えています。



講評：職業奉仕部門担当諮問委員 大館 清次

経済不安が日常的に迫ってくる昨今、この度のセミナーは実に時宜を得た計画でありました。これを企画実行された橋本委員長に心から敬意を表します。また、竹井講師の豊富なご経験と研究に基づくご講演には一同深く感銘を覚えました。この成果が、熱心に研修された各位の職業に反映されますようお願いいたします。